

校長研修だより5

ブラック会議

2021・4・28 重枝 一郎

いつの時代も学校現場は、それぞれの状況を踏まえて考えるべき課題に直面する。そして、それらの課題は、すべての教師が多様な考えを語り合う中で「答え」を打ち出していくことが求められる。それが、「会議」である。

「会議」では、参加している教師に思考の拡散と収束の両方が必要とされる。しかし、拡散と収束は異質な思考の営みであるため、会議の進め方や促し方が重要になる。

会議の中で今求めるのは、拡散か？収束か？参加者に明確に伝えること！！

学校における「会議」は、十分な拡散を経た上での丁寧な収束が求められる場面が多い。そのため話し合いでは、参加者に拡散か収束のどちらかを明確に求めなければならない。その役割は、司会進行役になる。いくつかのポイントをまとめる。(しかし、私は長い会議は嫌いである。笑。)

まず、定義として、

【拡散】各参加者が考えの固定化する枠を取り外し述べ合うことで、考えを広げながら多様性の中から学ぶ

【収束】各参加者が自分の考えを整理して(個の収束)、チームとして行う方策などの方向性を定める

次に、心得的なこととして

【拡散を促すために】

- ① 否定せず、耳を澄ます
多様な考えが存在することを喜ぶ。
- ② 自分に「なぜ？」を向ける
期待したほど意見が出ないときもある。そんなとき参加者は「なぜそうなのか？」と自分に問う。年齢や役職の違いは忘れて、未来志向で自分に問う。

【収束を促すために】

- ① 自身の変容を歓迎する
元々の自分の考えでない方向に向かっていくとき、自分の考えを変えていくことは決して後退ではない。これまでの考えにとらわれることなく、自分を更新していく感覚をもつ。
- ② 会議の目的を再確認する
時に、そもそも論になって否定的な意見に終始することがある。これは、会議の目的と参加者の思考がズれていることであり、そうならないために、ホワイトボード等で全体像や目的を見える化するなどの配慮も必要になる。

最後に、進め方。進め方の考え方は、拡散と収束を組み合わせることで意思決定することである。

- ① 身近な同僚や担当者との会話で拡散（思いや多様性に触れておく）（たっぷり雑談）
- ② その会話で気付いた考えの軸になることや見落としていた視点をもって個を収束させる
- ③ 会議内の拡散，司会進行役が拡散を促す
- ④ 会議内の収束，司会進行役が収束を促す

※限られた時間の中で、可能な限り開かれたものにするために、また、ボトムアップするためにも特に①と②は重要である。

この「会議」というテーマにおいて、私は、「個人力」と「組織力」の向上を目指すことが重要だと考えている。

「個人力」については、昭和の時代の会議しか知らない、学校の世界しか知らないことが大きな足かせとなっているように思える。やはり、様々な経験や新しい取組をしている情報などを取り入れることで、視野を広げていかないと、多様性や柔軟性、コミュニケーション力は高まらない。効率的で段取り上手になるには、日常での様々な取組において、意識化されてなくてはならない。「会議」について考えることも「個人力」向上という考えである。何をやるにしても必ずヒントを得ることができる。

「組織力」については、まずは、「個人力」の向上の考え方が、“ブラック会議”を避けることができる。そうすることで、それぞれのメンバーが優秀な「個人力」を発揮しやすくなり、その総和が「組織力」ということになる。

“ブラック会議”の例をあげると・・・

- ・結論が出ない、何も決まらない、先送りばかり
- ・出席者が多すぎる、時間が長い、一人一人の発言が長い
- ・報告会のように、資料説明が多い、空気がどんより
- ・否定的コメントや代案のない批判が多い
- ・最後にどんでん返し、今までの議論は何だったのかと思ってしまう
- ・意見対立で終わっていいと思っている

ここまで、「会議」についてとりとめもなく述べてきたが、やはり、表面の「身近な同僚や担当者との会話で拡散、思いや多様性に触れておく、たっぷり雑談」といったことが、すぐに始められる一番有効な方法だと思う。このことは、その会話で気付いた考えの軸になることや見落としていた視点をもって個を収束させることにつながり、「個人力」を高める。もちろん、たっぷり雑談することで、意外と「組織力」も高めている。

今回の話は、「働き方改革」にもつながる。「働き方改革」は、勤務時間ばかり目が行きがちだが、「教員が笑顔になる」「日々の生活や教員人生を豊かにする」ことが何より大切である。“ブラック会議”では、それは、あり得ない。

みなさん、年度初めの怒涛の1か月本当にお疲れさまでした。GWも部活動等でゆっくりできないかもしれませんが、少しはリフレッシュできることを願っています。ブラック職場にならないよう、お互い知恵を出しながらやっていきましょう。